

# ECOツーリズム



97号  
2023. Spring  
Vol.25 No.3

世界のエコツーリズムサイト  
チェジュ島・大韓民国

地域便り  
クリッピング(海外情報)  
事務局通信

巻頭インタビュー  
森里川湖が育む自然と  
人の暮らし+  
原風景を守るエコツーリズム  
山崎 亨(東近江市エコツーリズム推進協議会会長)

エコツーリズムの現場から  
持続可能な観光開発  
(サステナブルツーリズム)と  
JICAの取組

特集

## 活動報告 2022

(2022年4月1日から2023年3月31日までの活動)

JESのミッション

『環境・仕組みづくり』実践者サポート

『人づくり』人材の育成

『ネットワークづくり』地域や企業などの連携

『機運づくり』有識者派遣

## 事務局通信

## 編集後記

昨年11月より事務局次長として着任しております水谷と申します。これまで旅行会社グループで、インバウンド、人材育成、ブランドینگ、SDGs推進に携わってきました。観光立国推進基本計画においてもサステナブルツーリズムがうたわれて、「エコツーリズム推進のトピックであること」とても縁を感じています。過日、理事会でJESの2025年ビジョンとして次の2つが決議されました。1.「エコツーリズムと「エコツーリズム」による持続可能な地域づくり」が広く認知され、多様なプレイヤーをつなげるプラットフォームとなり、地域の課題解決や高付加価値化に貢献する。2.「観光業界・地方自治体・DMO等に「エコツーリズム」が理解され、各地域において取組を進める。」これまでの経験・知見とネットワークを生かし、かつ本質を見極める視点をもちながら、様々な分野の皆様との接点を大切に、企業様と地域の連携やエコツーリズム業界の確立に努めていきたいと思っております。(水谷初子 JES事務局次長)

## 法人会員紹介

### 一般社団法人 幡多広域観光協議会

四万十・足摺エリアの持続可能な自然環境から、自ら学び行動につなげる「観光×SDGs」の取組を推進中。



### 三井住友海上火災保険 株式会社

「エコツアー向けの保険」をご提供しております。保険提供を通じて安心・安全を提供し、エコツーリズムの発展・推進をご支援してまいります。



### 一般社団法人移住・ 交流推進機構 (JOIN)

都市から地方への移住や都市と農山漁村地域の交流を推進し、人口減少社会における地域の活動を応援する組織です。



### 富士北麓ユニバーサル アドベンチャーツーリズム協議会

富士山北麓の異業種が連携して、どんな方にも地域の魅力を楽しんで頂ける仕組みづくりに取り組んでいます。



## 会議等実施・派遣報告

(2023年3月~5月)

- 3/2 第5回大分県アウトドアガイド認証制度検討委員会開催(web)
- 3/3-5 エコツーリズムガイド講習会in志賀高原(長野県)開催
- 3/8 エコツーリズム推進協議会ネットワーク会議開催
- 3/10 観光を通じた地方創生のSDGs達成貢献に関する勉強会(内閣府)出席
- 3/17 理事会開催
- 3/29 国立公園オフィシャルパートナー締結式出席
- 3/30 下呂市エコツーリズム推進協議会出席
- 4/24 岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会出席
- 5/16 理事会開催
- 5/29 フィリピン・エコツーリズム研修講師派遣

## JES行事予定

(2023年6月~)

- 6月 会員向けオンラインセミナー開催
- 6/14 総会

■法人会員 企業・団体名：NPO法人赤目四十八滝溪谷保勝会 / 奄美群島エコツーリズム推進協議会 / 一般社団法人移住・交流推進機構 / 岩手県二戸市 / 合資会社浦内川観光 / 一般社団法人エコロジック / 認定特定非営利活動法人 エバーラスティング・ネイチャー / 愛媛県 / NPO 法人奥入瀬自然観光資源研究会 / 一般社団法人小笠原村観光協会 / NPO 法人おきなわ環境クラブ / 沖縄県環境部自然保護課 / 有限会社オズ / 株式会社社風の旅行社 / 環白神エコツーリズム推進協議会 / 一般財団法人休暇村協会 / 京都一周トレイル会株式会社 / 近畿日本ツーリスト株式会社公務営業支店 / くまの体験企画 / ぐりんびーず株式会社 / 下呂市エコツーリズム推進協議会 / 一般社団法人元気インターナショナル / 五色ヶ原の森案内人の会 / 株式会社コスモスインシア / 株式会社五千尺 / サービス・ツーリズム産業労働組合連合会 / 株式会社山岳太郎 / 株式会社ジューシービー / 株式会社JCBトラベル / 一般財団法人自然公園財団 / 株式会社JTB / 株式会社JTBガイアレック / JTB協定旅館ホテル連盟 / JTBグループ労働組合連合会 / 株式会社JTBコミュニケーションデザイン / 一般社団法人全国旅行業協会 / 全日本空輸株式会社 / 大山山麓・日野川流域観光推進協議会 / 株式会社高田松原 / 特定非営利活動法人たてやま・海辺の鑑定団 / 谷川岳エコツーリズム推進協議会 / 一般社団法人対馬 CAPP / 東京都 / 東京都小笠原村 / 公益財団法人東京観光財団 / 東急株式会社 / 東武トップツアーズ株式会社 / 公益財団法人 トトロのふるさと基金 / 東北リゾートサービス株式会社 / 鳥取県大山町 / 富山県上市町 / 公益財団法人名古屋市民休暇村管理公社 / 株式会社 日光自然博物館 / 日産自動車株式会社 / 公益社団法人日本観光振興協会 / 日本航空株式会社 / 公益財団法人日本交通公社 / 公益財団法人日本修学旅行協会 / 公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会 / NPO 法人日本ヘルスツーリズム振興機構 / 株式会社日本旅行 / 一般社団法人日本旅行業協会 / 株式会社博報堂 / 一般社団法人幡多広域観光協議会 / 富士北麓ユニバーサルアドベンチャーツーリズム協議会 / 公益社団法人富士宮市観光協会 / 東近江市エコツーリズム推進協議会 / 東日本旅客鉄道株式会社 / NPO 法人飛騨小坂 200 滝 / 株式会社ピッキオ / 株式会社フィールド & マウンテン / 福島県北塩原村 / 富士急行株式会社 / ヘルトラ株式会社 / 北海道弟子屈町 / 北海道旅客鉄道株式会社 / Mt.6 / 一般社団法人 摩周湖観光協会 / 一般社団法人松本観光コンベンション協会 / 三井住友海上火災保険株式会社 / 株式会社未来政策研究所 / 宮崎県串間市 / 株式会社モンベル / 公益財団法人屋久島環境文化財団 / 株式会社ハヶ岳登山企画 / 株式会社やまぼうし / NPO 法人湯来観光地域づくり公社 / 合同会社 ルーツ&フルーツ「富士山ネイチャーツアーズ」 / 財団法人ロングステイ財団 (2023年4月末現在)

## ECOツーリズム Vol.25 No.3 通巻 97 号 Spring 2023

発行 一般社団法人日本エコツーリズム協会 Japan Ecotourism Society (JES)  
〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-24-9 アイケイビル3階  
TEL. 03-5437-3080 FAX. 03-5437-3081 Email. ecojapan@alles.or.jp Web. https://ecotourism.gr.jp/

発行日 2023年5月31日  
発行人 田川博己(会長)  
編集長 海津ゆりえ(運営役員)  
企画・編集 高梨洋一郎(副会長) / 辻野啓一(運営役員) / 山田桂一郎(運営役員) / 高野千鶴(事務局) / 赤間亜希(事務局)  
デザイン 株式会社アートポスト

表紙写真: チェジュ島

山崎亨氏は大学で鳥類生態学を学び、滋賀県職員を勤めながらライフワークとしてイヌワシ・クマタカの生態研究および野生動物医学を通じた自然環境保全に取り組んできた。2004年、50歳の時にアジア各国での地域住民と一体となった猛禽類の研究と保護活動に専念するため県職員を辞め、2016年に東近江市エコツーリズム推進協議会の会長に就任。協議会では取組や議論が重ねられ2022年10月「東近江市エコツーリズム推進全体構想」の認定を国より受けた。東近江市におけるエコツーリズムとは何か、取組の経緯や背景、ベースにある猛禽類の保護活動とのつながり等について伺った。



森里川湖が育む自然と人の暮らしと  
原風景を守る  
エコツーリズム  
東近江市エコツーリズム推進協議会の活動



山崎亨氏  
Toru Yamazaki  
東近江市エコツーリズム推進協議会会長、  
アジア猛禽類ネットワーク代表

収録日：2023年4月19日  
収録場所：オンライン  
インタビュー：海津ゆりえ  
(文教大学国際学部教授)

東近江市の原風景

東近江市の  
エコツーリズムの原動力…  
原風景という地域資源

東近江市とはどんなまちですか。「エコツーリズム推進全体構想」作成を目指した経緯を教えてください。

東近江市は滋賀県の東部に位置し1市6町が合併した市です。西の端は琵琶湖に接し、東は三重県との県境である鈴鹿山脈で、そこに端を発する愛知川が市内を流れ琵琶湖へと注いでいます。鈴鹿山脈の裾野はなだらかで里には人の営みが広がり、川、湖へとつながる環境が一つの市の中に揃っています。例えば、鈴鹿山脈の谷あいの集落、政所町では谷筋の急な斜面に発生する朝霧を活かした茶葉の生産が1000年も前から続いており、「政所茶」として受け継がれています。また、琵琶湖畔には川や水路等でつながったいくつもの内湖と呼ばれる池や沼があり、それらの水の流れや湧き水、琵琶湖と内湖を行き来する魚など様々な資源を継続的に利用する工夫が人々の生活に根付いています。山間部と湖周辺では全く異なる景色ですが、自然と調和した東近江市ならではの森里川湖のつながりを包括的に守り、再生していくためにエコツーリズムの取組を始めました。

外の人に触れられる機会があつて改めて資源の価値に気づき、質が高められる。これはエコツーリズムの役割ですね。



ちびっ子沢登り

全ての活動のベースに  
環境基本計画がある

東近江市では農家民泊、東近江三方よし基金など、地域のポテンシャルを上げる様々な活動が盛んですが、こうしたまちづくりの活動とエコツーリズムの関わりについて教えてください。

東近江市は近畿地方の中で最も農耕地面積が広く米や野菜、果物などの生産が盛んです。この「里」の中で農家民泊が行われており、原風景の中で滞在をより豊かなものにしていくれています。

また、「東近江三方よし基金」は2017年に設立され、個人や企業からの支援(寄付等)を基金として管理し、地域の様々な課題解決を目指す社会的事業者へ助成する、市独自の「コミュニティファンド」です。市内の自然環境をベースに、それらを保全し活用する取組や、人と人・人と自然をつなぐ取組などを通じて、地域の中でお金がまわる仕組みを作り未来資本を太らせようとするものです。

これらの活動は「第2次東近江市環境基本計画」に基づいて行われており、人の生活や経済活動は全て環境がベースにあり循環共生型社会を目指すことが位置付けられています。エコツーリズムもこの基本計画を実現するための一つのツールであり、全てがつながっています。私はいくつかの様々な場に足を運びまちづくりの活動とエコツーリズムをつないでいます。



風越谷スノーシューツアー

協議会の会長に就任された経緯とは？

エコツーリズムの具体的な取組を実施するために、資源の利用と維持に関わる地域住民や関係行政など幅広い主体で構成される東近江市エコツーリズム推進協議会が2016年に設立されました。私は当時すでに滋賀県職員を辞めアジア猛禽類ネットワークの代表として東南アジアで猛禽類を活用したエコツアーの企画や人材育成を行っていました。その経験を買われ、協議会設立の時に会長就任への依頼を受けました。インドネシア等では森林伐採や違法伐採が急速に進むという問題がありましたが、東近江市では適切な利用がされず森や里が荒廃していくという問題を抱えていました。背景は異なりますが、こ

れまでの経験や自然科学分野での知識を活かせると思い、会長に就任しました。

実は、私が1976年に滋賀県で初めてイヌワシの生息を確認したのが東近江市内の鈴鹿山脈中央部でした。県職員時代には年間100日近く調査のために山に入っていました。その近くには小椋谷という木地師文化発祥の地があり、現在の小椋市長がその小椋谷出身で、森林資源を多様な形で活用しながら保全再生するという考え方で意気投合していたことも要因です。

ガイド養成講座、  
認定エコツアー制度の設置

協議会の活動について教えてください。

協議会ではガイドの養成、「認定エコツアー制度」の確立、広報、鈴鹿十座(注1)のトレイル整備など様々な活動を行っています。中でも特にガイドの養成は、エコツアー参加者の満足度を左右するため最重要課題と位置づけられており、昨年度は「森里川湖エコツーリズムガイド養成講座」を全8回開催しました。講座を全て受講した方には講習会修了証(認定証)を発行しています。日々のガイド活動がマンネリ化しないように、ガイドのモチベーションを維持するため、定期的なフォローアップ講座を実施していくことが大切だと考えています。

「認定エコツアー制度」は昨年度、議論を重ねて仕組みを作り、今年度から運用を開始しました。認定



エコツーリズムガイド養成講座



認定エコツアーロゴ



釈迦ヶ岳トレッキング

山崎亨  
1954年滋賀県生まれ、鳥取大学獣医学科卒業後、信州大学教育学部生態学研究室で鳥類生態学を学ぶ。1977年から滋賀県職員として畜産行政に携わりながら、ライフワークとしてイヌワシ・クマタカの生態研究および野生動物医学を通じた環境保全に取り組む。1999年にアジア猛禽類ネットワークの設立に尽力。2004年に滋賀県職員を辞し、アジア各国での地域住民と一体となった猛禽類の研究と保護活動に傾注している。2015年4月から東近江市参与、2016年5月(設立時)から東近江市エコツーリズム推進協議会会長。

# 2022年度

## 活動報告

2022年4月1日～2023年3月31日

### 環境・仕組みづくり（実践者サポート）

#### 「エコツーリズム推進全体構想」作成支援

#### 「奥入瀬溪流エコツーリズム推進全体構想」、「神津島エコツーリズム推進全体構想」

日本エコツーリズム協会（JES）では、エコツーリズム推進法に基づく「エコツーリズム推進全体構想」作成のための支援業務をこれまで5つの地域で行ってきました。その実績をもとに2022年度は奥入瀬溪流（青森県十和田市）、神津島（東京都神津島村）の2か所で作成支援を行いました。協議会の設置から全体構想策定まで全6回の会議を行い、会議の都度、ガイド団体ら協議会関係者による意見交換の時間を設け、議論を重ねました。協議会の設置ではエコツ

アーに係わる事業者、地域住民、NPO法人、専門家、土地の所有者、その他エコツーリズムに関連する活動に参加する人、国や県などの関係行政機関等を構成員としました。奥入瀬溪流では、紅葉時期の渋滞緩和を目的としたマイカー規制を行っている「奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会」を母体とし、実行委員会の中に「奥入瀬溪流エコツーリズム推進全体構想」検討部会を設置し協議を行いました。神津島では「神津島エコツーリズム推進協

議会」を立ち上げ、会長には現地で活動するガイド事業者の方が選任されました。神津島は2020年に国際タークスカイ協会による「星空保護区」に認定されており、島のガイドと巡る星空観察のプログラムやガイド育成に力を入れています。協議会開催後にそれぞれの地域でガイド団体による意見交換の場を設け、ルールやモニタリング等について現在の問題、課題を出し合い共有しました。すぐに解決に至らない課題もありますが、非常に意義のある時間とな

り、継続的な話し合いの場づくりが求められていました。2022年度に策定された全体構想は今年度、関係省庁間の事前協議を経て認定申請の手続きへと入ります。認定を受けて終わりでなく、全体構想で示したことを実践していくことが大切です。今年度は奥入瀬ではガイド団体による継続的な話し合いの場の確保、神津島ではエコツーリズムによる自然環境保全活動、島民や観光客への普及啓発活動などを行っていく予定です。

#### JESが「エコツーリズム推進全体構想」の作成支援を行った地域

実施年度	地域
2012	「谷川岳エコツーリズム推進全体構想」群馬県みなかみ町
2013	「鳥羽エコツーリズム推進全体構想」三重県鳥羽市
2016	「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」北海道弟子屈町
2017	「上市町エコツーリズム推進全体構想」富山県上市町
2017	「檜原村エコツーリズム推進全体構想」東京都檜原村
2022	「奥入瀬溪流エコツーリズム推進全体構想」青森県十和田市
2022	「神津島エコツーリズム推進全体構想」東京都神津島村

#### 全6回の協議会開催スケジュール

回	議題
第1回協議会	エコツーリズム推進協議会の設立と協議会会長選出 エコツーリズム推進法の概要説明 全体構想策定フローの説明 1. エコツーリズムを推進する地域 (1) 推進の目的及び方針について (2) 推進する地域について
第2回協議会	2. 対象となる自然観光資源の名称と所在地 3. エコツーリズムの実施方法 (1) ルール (2) 案内（ガイダンス）及びプログラム (3) 自然観光資源のモニタリング及び評価 (4) その他
第3回協議会	4. 自然観光資源の保護育成 (1) 自然観光資源の保護及び育成の方法 (2) 自然観光資源に関する主な法令及び計画など 5. 協議会の参加主体
第4回協議会	6. その他エコツーリズム推進に必要な事項 (1) 環境教育の場としての活用と普及啓発 (2) 他の法令や計画等との関係及び整合 (3) 農林水産業や土地所有者等との連携及び調和 (4) 地域の生活や習わしへの配慮 (5) 安全管理 (6) 全体構想の公表 (7) 全体構想の見直し
第5回協議会	前回の協議会での意見協議の修正箇所報告
第6回協議会	全体構想策定

#### エコツアー向けの保険

JESでは2009年からジェイアイ傷害火災保険株式会社（以下JI）の保険代理店としてエコツアー向けの保険（普通傷害保険、国内旅行保険、賠償責任保険）を会員対象に販売してきました。2022年9月末をもってJIが賠償責任保険の引受を停止することとなり、これに伴い賠償責任保険を含む全ての保険商品について、引受保険会社を三井住友海上火災保険株式会社（以下MS）に変更しました。

2022年10月1日からはMSの代理店として保険商品が新しくなり、申込の手続きや毎月の人数報告の方法等が簡便になりました。今後も個人事業主から任意団体、法人まで幅広くご利用いただけます。

下のグラフは契約団体数と事故件数の推移です。事故をゼロにすることはできませんが、今一度日頃からの安全管理について再確認し、安全なツアーの催行を心がけていただければと思います。

#### 契約団体数・事故件数推移



### 大分県アウトドアガイド認証制度検討委員会 認証制度の創設を見据えたガイド登録制度の設置を決定

大分県では、アウトドア活動の活性化と自然体験型観光コンテンツの安全性確保、品質担保、環境・観光資源保全等を推進するため、県独自のアウトドアガイド認証制度の検討を行っています。本検討委員会は、株式会社JTB大分支店とJESが共同で受託し、委員会運営や基礎調査、先進地視察の企画を行いました。

委員は県下の自然体験型観光コンテンツ提供事業者等、旅行業者、有識者、行政機関からの5名で構成され、弊会からはアドバイザーとして5名の専門家を派遣し、制

度設計に関する助言を行いました。

検討委員会では、本制度の対象とする範囲、設置の理念、行動指針など、組織を形づくるための基礎的な要素について、それぞれの整理とあり方を議論し、登録要件についても具体的な議論がなされました。

先進地視察では、屋久島を訪問し「屋久島公認ガイド」の資格について関係者へのヒヤリングを行い、制度設計の参考としました。今年度は5回の委員会が開催され、委員会で議論と県下でのアウトドアガイドの活動等の状況を踏まえ、認証制度の創設を見据えた

登録制度の設置を決定しました。

登録制度では、参画する方々のメリットを重視した制度設計となっており、各種情報提供や県の観光施策と連動した販売促進、リスクマネジメンツの支援としての保険加入機会の提供などが予定されています。

#### 派遣アドバイザー

金子 森氏	株式会社やまぼうし 代表取締役
木村 雄志氏	Activity Research 代表
寺崎 竜雄氏	公益財団法人日本交通公社 常務理事
松田 光輝氏	株式会社知床ネイチャーオフィス 代表取締役
松本 毅氏	有限会社屋久島野外活動総合センター 代表取締役



©Oita Cycle tour Ring



奥入瀬溪流



神津島での会議

講習会 開催概要

主催・共催	名称	会場	実施日
環境省・ 日本環境教育 フォーラム	<b>国立公園満喫プロジェクト関連事業 自然資源を活かすエコツーリズム・インタープリテーションの人材 育成支援</b> 環境省では国立公園に限らず全国において自然資源を活用した持続可能な観光の仕組み構築に向けたキーマンとなる人材の育成支援を行う事業を2017年度より実施。 ビジターセンターなどの拠点施設のスタッフや体験プログラム、エコツアーなどを企画・実施する事業者やガイド、コーディネーターなどを対象。 1) 事前アドバイザー派遣 (10月中旬～11月上旬) 2) オンライン集合研修 (11/11～12/6、うちオンライン集合日は3回) 3) 行動計画の実践 (研修後～2月下旬) 4) 事後アドバイザー派遣 (研修後～2月下旬)	各地域 オンライン	10月～2月
奄美群島 エコツーリズム 推進協議会	<b>奄美群島エコツアーガイド認定講習 (新規認定) および更新講習</b> 2016年度よりスタートした「奄美群島エコツアーガイド認定制度」のガイド技術部分を担当した講習を開催。2020年度からは更新講習を実施。	奄美大島 喜界島 徳之島 与論島	11月14～18日 12月4～9日
長野県自然保護課	<b>エコツーリズムガイド講習会 in 志賀高原</b> 長野県内の自然保護センターを拠点とするエコツーリズム推進のための担い手育成として2泊3日のガイド講習会を開催。	長野県 志賀高原	2023年 3月3～5日
一般社団法人 ツーリズムみはま	<b>エコツーリズムガイド講習会 in 御浜町</b> 御浜町の地域おこし協力隊を主な対象とした2泊3日のガイド講習会を開催。	三重県 御浜町	11月22～24日
東北運輸局・ (株)オールアバウト	<b>東北地方における精神文化による SBNR 層の来訪促進に向けた多 言語ガイド講習会</b> SBNRとは「Spiritual But Not Religious」の頭文字をとったもので、特定の宗教への信仰を持たないが、スピリチュアルに関心があり精神的な豊かさを求める信仰的スタンスのことで、インバウンド向けに会津におけるサムライの精神文化等をテーマとしたプログラムの企画ワークショップを開催。	福島県 会津若松市	2023年 1月24～26日



奄美群島



三重県御浜町



長野県志賀高原



東北

人づくり (人材の育成)

ガイド養成講習会の開催

エコツアー推奨制度「グッドエコツアー」

JESおすすめエコツアー



「グッドエコツアー」は、エコツーリズムの考え方に基づく一定の基準をクリアしたツアー商品を、JESがおすすめするエコツアーとして推奨する制度です。評価は主にチェックリストを用いて行われます。

「グッドエコツアー」はツアーに参加する人が、安心して質の高いツアー商品を選択できる環境を作り出すことを目的としています。また、エコツーリズムの考え方に沿って活動し

ているエコツアー事業者を支援することを旨とする制度でもあり、彼らが行っている地域の環境整備など普段は旅行者の目につかない活動をアピールする場を提供します。

国内でエコツアーを主催する旅行業者、地域のガイドや団体が提供するエコツアーが推奨を受けると、ロゴマークを付与し、推奨ツアーの告知やプロモーションなどに活用していただけます。(2023年4月時点の登録数: 24件)



奥入瀬自然観光資源研究会 五色ヶ原の森案内人の会 山岳太郎



集合写真

大賞受賞



受賞団体と講評

賞	受賞団体	評価のポイント
大賞	てしかがえこまち推進協議会 及び一般社団法人摩周湖観光協会 (北海道)	従来からの資源保全と安全管理の取組と併せて、特定自然観光資源の指定を行い、人数制限とガイド認定制度の連携の仕組みを整備した。利用者へ高付加価値な特別な体験を提供するとともに適正な資源の管理を実現した先進事例として高く評価された。
優秀賞	認定特定非営利活動法人 エバーラスティング・ネイチャー (小笠原海洋センター) (東京都)	野生動物の保全活動とあわせて、ウミガメの卵の埋卵等の保全活動を体験プログラムとして企画実施し、参加者が能動的に保全活動に参加できるような工夫を行っている。観光客のニーズに対応する多種の普及啓発プログラムの企画開催だけでなく、それらのツアー収益の保全活動への還元や、地元小学校への教育活動も行うなど地域のエコツーリズムに貢献している。
	一般社団法人 Switch Switch 及び 鳥浜漁業協同組合 (福井県)	NPO 法人と漁業協同組合が協働で伝統漁法ツアー実施し、食を通じて地域独自の文化と自然の連関を参加者に伝えている。また、保全活動の実践などフィールドの再生に貢献すると共に、ツアーの代金や商品の売上の一部を三方五湖自然再生協議会や漁業協同組合の環境活動へ寄付するなどネイチャーポジティブなツーリズムとなっている。
	公益財団法人 トトロのふるさと基金 (埼玉県)	「ナショナル・トラスト活動」とエコツーリズムを組み合わせ、フィールドの保全と活用へ長年努めている。管理作業に一般市民が参画しやすい仕組みづくりや、自然に親しみやすいツアー企画によって、来訪者や地域住民の双方が地域のファンとして継続的に関わるための創意工夫あふれる取組を行っている。 30by30 目標 (2030年までに陸と海の30%以上を保全する目標) に貢献する OECM や自然共生サイト (民間取組等によって生物多様性保全に貢献する地域) の参考になる取組事例である。
	株式会社ナチュラルブルー (沖縄県)	ダイビングショップとしてのエコツアー事業を実施すると共に、海の世界環境教育、環境保全等の社会貢献活動にも取り組んでいる。地域の高校生や子どもたちに対してのSDG sの普及啓発や、障がい者施設とのコラボレーションなど、多岐にわたる活動を通して地域コミュニティへの関与を積極的に行っている。
特別賞	京都一周トレイル会 (京都府)	ハード面の整備だけでなく、利用情報の提供やPR活動、公共交通を考慮したコース設定、ガイドマップの売り上げを維持補修に充当するなど、仕組みの整備にも力を入れている。長年にわたって多様な主体が協力して運営され、従来の京都観光とは別の切り口での楽しみ方を来訪者に提案している。
	日産自動車株式会社 (神奈川県)	エコツーリズムを推進する地域において環境負荷の少ない移動手段としての電気自動車 (EV) の社会実装のために、製造者として積極的に地域に関与している。また、利用者が簡易に優遇を受けるためのデジタル上の仕組みの整備も行い、来訪者への周知と利用促進に努めている。
パートナーシップ賞	東急株式会社 THE ROYAL EXPRESS 及び 北海道旅客鉄道株式会社 (東京都・北海道)	複数の鉄道会社と地域のエコツアーガイドが連携することで、高付加価値な商品の企画実施を実現した。列車のクルーによるエンターテインメント性の高い解説や、鉄道旅行ならではの景観の提供などの工夫がされている。鉄道の維持に課題の多い北海道において、社会的に意義のある取組を行っている。

第18回目となるエコツーリズム大賞は、ESと環境省の共催で行っている表彰制度です。今回は北海道から沖縄まで広範囲から19件の応募があり、そのうち新規応募は18件でした。受賞団体は下表のとおりで計8件、11団体が受賞されました。

【海津ゆりえ (文教大学教授) 審査委員長講評】

エコツーリズムは、地域の自然や文化、歴史などの資源を皆で守り伝え、次世代に継承していく、地域が主体となる観光のあり方ですが、その実践者と取組内容はそれぞれで、また多様であることが、今回のエコツーリズム大賞の受賞者の顔ぶれからも伝わってきます。コロナ禍でいったん立ち止まり、これからの観光と地域の未来を見据えてこれら皆様の活動が形になりつつあることを感じた審査でした。

環境・仕組みづくり (実践者サポート) 第18回エコツーリズム大賞

# ネットワークづくり（地域や企業などの連携を後押し）

## 環境省・国立公園満喫プロジェクト 国立公園オフィシャルパートナーシッププログラム運営支援

環境省では国立公園の美しい景観や魅力を、企業と相互に協力し民間の知見やチャネルを通じて世界に向けて発信するため、2016年に国立公園オフィシャルパートナーシッププログラム（以下OP）を立ち上げました。オフィシャルパートナーとして締結した企業は2022年末時点で計130社となり、2023年度もさらなる広がりが見込まれています。

JESでは東武トップツアーズ株式会社（JES法人会員）と共同でOPの事務局業務を受託し、当会では各国立公園事務所や企業へのヒアリング、意見交換会の企画運営、専門家派遣によるファシリテーション等に携わりました。

第1回の意見交換会では4つのテーマを

### オフィシャルパートナー意見交換会

回	トピック・テーマ
第1回	国立公園のブランド力を高める広報連携について 国立公園のブランド力を高めるコンテンツ・ツアーの企画販売について 新たな民間投資と国立公園の連携について 企業のSDGs・CSR等の活動と国立公園の連携について
第2回	観光を学ぶ学生とのフィールドワークのコラボレーション CO2排出削減に貢献するEVの活用 国立公園内のトイレ問題における官民連携 など
第3回	大阪・関西万博・ツーリズム EXPO 出展 アドベンチャートラベルを中心とした商品造成・販売 今後のOP運営全般

設定の上、それぞれの専門家によるファシリテーションを行いました。第2回は新宿御苑インフォメーションセンターとオンラインでのハイブリッドで開催し、ピッチイベントと交流会を行い大変盛況でした。第3回は今後環境省で予定する具体的な取組を中心に意見交換とワークショップを行いました。

また、JESもオフィシャルパートナーの一員であり、その取組として、ベルトラ株式会社（JES法人会員）の八丈島（富士箱根伊豆国立公園）における「国立公園ならではの」ツアー企画への支援を行いました。今後も様々な地域と企業をつなぐ役割を担い、同様な取組を進めていく予定です。



ベルトラ企画：人とのふれあいと自然を感じる八丈島エコツアー

### 国立公園オフィシャルパートナー制度



ベルトラ企画：  
人とのふれあいと  
豊かな自然を感じる  
八丈島エコツアー



## エコツーリズム推進全体構想認定協議会ネットワーク会議

ています。

エコツーリズム推進法に基づくエコツーリズム推進全体構想の認定数は2023年4月現在で22件になり着実に増えています。環境省とJESではエコツーリズムの推進地域や認定地域への情報提供・情報交換の場として「ネットワーク会議」を開催し、

今回は全体構想に定める「特定自然観光資源※」を「地域の宝」として捉え、保全の仕組みや、それらを活用することで特別な感動体験として消費者に提供することをテーマとして、事例や取組発表、専門家の

しや移行等への動き、他地域の協議会への視察等について報告があり、この会議をきっかけに認定地域間で活発に交流が生まれていることがうかがえました。

置を講ずる必要があるもの」とされていますが、「入域制限」という行為規制の副次的な効果としての「付加価値の向上」も併せて考えていくことが「特別な感動体験」につながるとの意見も出されました。

招聘、意見交換と議論・質疑等を行いました。

各協議会からの近況報告では、長らくコロナ禍を経て、徐々に観光産業が回復の兆しを見せていること、また観光地域づくり法人（DMO）の設立や、協議会と連携する組織の法人化、協議会の組織体制の見直

※特定自然観光資源とは、エコツーリズム推進法に基づいて、市町村によって保護の措置を講じるために指定される自然観光資源のこと。指定区域内の立入制限などの規制措置を講じることができ、規制措置に反した者に対して30万円以下の罰則を科すことができる。

### 事例発表

発表者	内容
株式会社 wondertrunk & co.	インバウンド向けアクティビティ予約サイト、地域と外国人を結ぶ仕組みづくり
竹富町西表島エコツーリズム推進協議会	「西表島エコツーリズム推進全体構想」認定などの取組
てしかがえこまち推進協議会	「硫黄山の噴気孔」を特定自然観光資源として指定し立入制限を実施



てしかがえこまち推進協議会



竹富町西表島エコツーリズム推進協議会

## 福島県受託事業…インバウンド向けホープツーリズム 震災からの復興と地域の再生 商品造成支援

JESは株式会社オールアバウトと連携し、福島県の受託事業としてホープツーリズム・浜通りインバウンド誘致のための訪日旅行者向け観光コンテンツ及びモニターツアーの説明会を開催しました。

福島県では「インバウンド向けホープツーリズム」として、震災からの復興と地域の再生を目指す人々との交流を通じた、食/自然/歴史・文化/震災の記憶などを、ガイド育成や現地でのワークショップなどを通じて磨き上げ、浜通り地域ならではのインバウンド観光の支援・推進を行っています。JESはエコツーリズム推進の活動で培ってきた地域の資源を持続的に活用する取組をベースに、ツアー商品造成のための説明会の運営を行いました。

説明会には、主催者の福島県観光交流局関係者、福島県沿岸地域にて訪日観光客向けのツアー造成に興味がある旅行会社、訪日メディア関係者、福島県浜通りの地域事業者ら計64名が参加しました。



エージェント向け説明会の開催

課より福島県のインバウンド観光の現状やホープツーリズム及び浜通りの概要などについて紹介した後、福島県浜通りの地域事業者4名が現地コンテンツについて会場・オンライン経由で紹介し、オールアバウト社は2月に実施したモニターツアーについて案内しました。続いて、JESの田島理事がファシリテーターを務め、インバウンド誘致に向けたツアー商品の造成について参加者の間で活発な意見交換が行われました。説明会に参加した旅行会社からは、浜通りならではのコンテンツに対する関心、公共交通機関の状況やターゲットがわかったため今後のツアー造成につなげていきたい、という声が出ていました。

## 機運づくり （講師・有識者派遣・紹介）

### 有識者派遣実績

発注者	派遣先	日程
岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会	岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会出席	4月7日 2月17日
一般社団法人日本旅行業協会	2022年度JATA主催セミナー テーマ別観光×デスティネーションセミナー講師派遣	5月17日
一般社団法人環境イノベーション情報機構	国立公園・温泉地等で滞在型ワーケーション審査委員会 (オンライン開催)出席	5月26日
滋賀県東近江市	東近江市エコツーリズム推進協議会ガイド研修会講師派遣	6月26日
帝京大学	帝京大学経済学部観光経営学科における講義講師派遣	7月5日
八ヶ岳ツーリズムマネジメント(株)八ヶ岳登山企画	八ヶ岳エシカルツアー研修会講師派遣	7月13日 10月24日
公益財団法人東京観光財団	職員専門性向上研修「(東京の)島しょにおけるエコツーリズムの現状と今後」講師派遣	7月19日
株式会社未来政策研究所	下呂市エコツーリズム推進協議会出席	7月22日 3月30日
株式会社JTB 株式会社JTB総合研究所	内閣府地方創生SDGs官民連携プラットフォームSDGs達成に貢献するサステナブル・ツーリズム勉強会	8月19日
環境省	富士北麓事業視察	12月8日
東京都	三宅島エコツーリズムガイド養成講習会講師派遣	12月14日
上智大学	総合グローバル学部総合グローバル学科(小林ゼミ)での講義講師派遣	12月19日

# 火山が生んだ自然の宝庫、 チェジュ島

渡守武 祐子  
済州特別自治道 東京観光広報事務所 所長



火山で生まれた地層が見られる迫力満点の龍頭海岸（ヨンモリヘアン）



E-RUN トリップでダイビングしながら海洋ゴミを拾う様子



島の無形文化遺産に登録された海女は現役で活躍している

可能なレジャー観光コンテンツの開発も行っています。E-RUNとは、ECO-RUNの略で島の持続可能な旅行、環境にやさしい旅行基盤づくりのために走っていくという意味が込められています。「スポーツ（トレッキングやランニング、ダイビング）+ミッシェン+環境にやさしい」がテーマの観光コンテンツを発信し、地域住民や観光客が参加しています。2021年からテスト運営を開始し、これまでに計4回の運営で海洋ゴミを100キロ回収し、参加者たちの環境に対する意識が変わっていったという報告を受けています。ありのままの自然を楽しむをテーマに、島のウォーキングコース「オルレ」を歩き、ダイビングをしながら海洋ゴミ拾いなどの環境ミッションを行い、夜のキャンプではゴミ発生と自然破壊を最小化できる教育を学ぶなど、島の観光を楽しむながら環境に関する教育プログラムなども同時に行っています。

活用した展示を行う環境認識改善プロジェクト「FILTER」も定期的に行われています。展示スローガンは「チェジュの海は私たちの遊びの場であり、必ず守らなければならない場」。水を浄化するフィルターのようにチェジュの海をきれいに守って、「こう」という意味が込められています。島内のビーチで開催された展示と一緒に海洋ゴミを拾うキャンペーンなども行い、2週間で約4500名が参加するなど、多くの観光客にもアプローチすることに成功しています。



海洋ゴミを活用した展示で話題を集めた環境認識改善プロジェクト「FILTER」

## ジオの世界が点在する島、チェジュ

韓国最南端に位置するチェジュ島。福岡県とほぼ同じ緯度にあるため、付近を暖流である対馬海流が流れているため、韓国の中では最も気候が温暖な地域です。日本人にとつての沖縄のような、国内リゾートのメッカとして知られています。白い砂浜にエメラルドグリーン色の海、ユネスコ世界自然遺産に登録されている美しい自然景観。観光リゾートとしての魅力は広く知られていますが、それ以外にもチェジュ島が注目されているのは、学術的に研究価値が認められているからなのです。

チェジュ島は約180万年前から1000年前までの火山活動による噴出物で形成された島で、火山活動の痕跡が原型のまま保存されています。その価値が評価されて2010年に島全体がユネスコ世界ジオパークとして認定されました。その中でも特に景観が美しく、



カルムステイでは、自分で採った野菜でごはんを作ること

その価値を実際に見ることが出来る場所として漢拿山や万丈窟、城山日出峰、西帰浦、天地淵瀑布、中央大浦海岸柱状節理帯、山房山、龍頭海岸、水月峰などの9箇所が主要ジオ名所として指定され、世界ジオパークネットワークに加入しました。さらに、2014年に牛島、飛揚島、善屹コッチャワルが追加され、主要ジオ名所は12箇所となりました。主要ジオ名所はどれも元々観光地として有名な場所も多く、実際に行ってみて触れることができるのも魅力です。

## チェジュの自然、文化、人をつなぐ エコツーリズムの活動

年間1000万人以上の観光客が国内外から訪れる韓国を代表する観光地であるチェジュ島では、ここ数年で様々なエコツーリズムの活動が行われています。観光マーケティングを行う済州観光公社では、持続可能な観光政策として「村旅行」の統合ブランド「カルムステイ」を作り、村ごとの特色を活かした地域住民主導の観光商品を開発しました。

「カルム」とは島の方言で村という意味で、「ステイ」と合わせた造語。カルムステイの一例として、300年以上前から椿が有名な村「シンフン」では、地域住民と一緒に椿の群落地に行き、椿の花を摘み、椿油を作ったり、地元食材を使った料理を食べたりと、村での暮らしを体感する観光商品を開発しました。カルムステイでは、村の農業や産業に触れるなど、ありのままの村を体験し、この村がこれからは続いていくことを考える、いつもの観光とは違う視点で島を楽しむ新しい観光の形を提案しています。現在島にある小さな村の10箇所ほどがカルムステイに参加しており、今後も増やしていく予定です。

他にもチェジュ島では、「世界にE-RUN トリップ」という環境認識の改善を促す持続

## Ta/Ka/Ra/Mo/no

### 碧い海と真っ白な砂浜

世界自然遺産の島として、豊かな緑や火山はよく知られていますが、透明度の高い碧い海と真っ白な砂浜と美しい海が広がっていることは意外と知られていません。遠浅で穏やかな海はチェジュの宝物。海のシーズン以外でもオーシャンビューのカフェなどが多く、季節問わず観光客にも人気のビーチがたくさんあります。



島でもトップクラスの美しさを誇るヒョプチェ・ビーチ

### アクセス

日本からチェジュ島には関西国際空港から直行便が運航、所要約1時間40分。韓国・金浦空港からも直行便が運航、所要約1時間。



### 連絡先

チェジュ島に関するお問い合わせ  
済州特別自治道 東京観光広報事務所  
<https://www.visitjeju.net/jp>

## 沖縄県 恩納村

### まえだ 眞栄田岬周辺において入域制限等のルールを試行的に実施

丸川 遼也 (内閣府沖縄総合事務局 運輸部 観光課)

沖縄では、重要な観光コンテンツの一つとしてマリンレジャーが挙げられますが、新型コロナウイルス感染症の拡大前は、利用者の増加等による環境負荷(例:サンゴ礁の劣化、生物への悪影響)や、オーバーツーリズムによる地域への負荷(例:違法駐車、交通渋滞)等の弊害が一部地域で生じており、持続可能性の観点から大きな課題がありました。

そこで、沖縄総合事務局では、令和3年度、持続可能で高付加価値な海洋観光を推進するため、駐車場における露店営業や違法駐車、海域の混雑等の問題が生じていた恩納村の眞栄田岬をモデル地区として、入域制限や届出制による利用者登録、利用者に対する事前教育等の実証事業を実施しました。

実証事業の内容として、具体的に以下の取組等が行われました。

①エリア制限・・・サンゴの踏圧等の人為的な影響からの保護が必要なエリアについて

入域制限を実施。

②時間制限・・・海域利用時間を1人(1隻)あたり100分と設定。

③人数制限・・・同時海域利用者数を200名に設定。

④届出制による利用者登録・・・利用者に対し届出制を実施。

⑤利用者向けの環境保護・安全講習の実施・・・Green fins(※)の行動規範の周知や安全なスノーケルの方法等について、利用者に対し事前に簡易講習を実施。

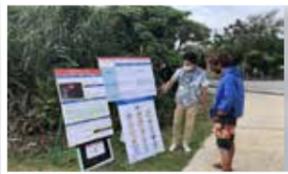
眞栄田岬はマリン事業者のみならず、管理施設や漁業者等、様々な関係者がいるため、これまで適切なあり方について十分な議論・検討ができていなかったところ、実証事業を通じて地域における議論の場を形成することができ、実証事業後においても地域の実情に即した対策の検討が行われています。

具体的には、公園内利用のルールに係

る周知看板の設置や、対外的な混雑情報発信等の取り組みが実施されているのに加え、適正管理に向けた事業者の利用登録やエコツーリズム推進法の認定、マリン事業者のローカル認証、駐車場の管理運営の最適化に向けた検討が行われており、持続可能な眞栄田岬を目指し、地域が主体となって取り組んでいます。



眞栄田岬でのエントリーの様子



Green Fins 及び利用ルールの説明の様子

(※) Green fins: UNEP(国連環境計画)とイギリスの Reef World 財団によるサンゴ礁保全の取組み。環境に配慮したダイビングやシュノーケリングのガイドラインの作成と、それを遵守しているダイビングショップの評価・認定を行なっています。

## 青森県 十和田市

### 十和田湖畔における廃屋跡地利活用の取組 やすみや 十和田八幡平国立公園休屋地区

深谷 雪雄 (十和田八幡平国立公園管理事務所長)

休屋地区は美しい湖畔景観をたえ、十和田神社や乙女の像が位置する当国立公園唯一の利用拠点です。近年は社会状況の変化を受けて増加した廃屋による景観阻害や利用サービスの低下が課題となり、十和田八幡平国立公園満喫プロジェクトの重要施策として、施設ごとの状況に応じた法的手続きや解体作業を進めています。令和3年度に大型観光ホテル1棟、令和4年度に休憩所施設3棟の解体・撤去が完了し、令和5年度も新たに2棟の休憩所施設の撤去を予定しています。

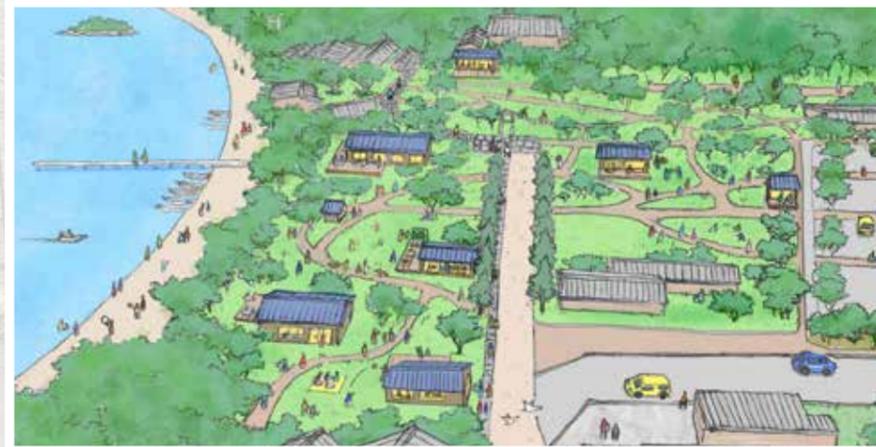
地区の活性化に向けて跡地の利活用が重要であり、民間施設を誘致することとしています。そのためにまずは地区全体での土地活用の方針を検討しています。令和3年度には、観光ホテル跡地の活用に関する地域の住民や事業者との意見交換を通じて、「密で過大な建物配置を避け、湖畔景観を活かした上質な環境を創出する」という将来イメージを共有しました。

令和4年度は、地域外の民間事業者からの提案・意見を募集するサウンディング調査を実施し、休屋地区の課題や跡地活用に必要な条件を改めて整理しました。これらの結果を

踏まえて、今後地区全体の土地活用の計画と民間参入の方針を更に整理していく予定です。上記の検討と並行して、観光ホテル跡地においては地域の活性化や土地活用の実証のため、地区内の事業者により設立された「十和田湖畔の未来協議会」と連携してイベント開催等の暫定的な土地利用を行っています。令和4年度は、夏と秋の「とわだこマルシェ」のほか、十和田湖の名産品を支えるヒメマス

漁師との交流イベントを開催しました。こうした活動を地域内外の連携を強める機会にもできればと考えています。

廃屋跡地周辺では、地元十和田市により神社に向かう道路の石畳化工事が完成したほか、民間事業者も外観デザインの改修などに取り組んでいます。関係者の連携によりエリア内の景観が変わりつつありますので、今後の取組にもご注目ください。



将来イメージ(ホテル跡地の活用を地区住民・事業者と議論して作成)



とわだこマルシェの様子

## 沖縄県 やんばる

### 沖縄島北部やんばる地域(東村・大宜味村・国頭村)における新たなサステナブルツアー「保全体験型ナイトツアー AKISAMIYO」

妹尾 望 (NPO 法人東村観光推進協議会)

2021年7月に世界自然遺産に登録された「やんばる地域」での新たな取組「保全体験型ナイトツアー AKISAMIYO」(※1)について紹介します。このツアーは従来の自然観察ツアーとは異なり、「やんばるの森」の現状を調べる環境モニタリング調査を体験しながら、夜の森で希少な動植物や星の観察、漆黒の闇の体験、街の喧騒とは違った自然の音など、五感を通してやんばるの森を体験してもらうツアーです。なお、このツアーのベースには地域住民が主体となって取り組んできた「林道パトロール調査」(※2)という活動があります。

ツアーでは本格的な調査しながら、参加者がガイドと共にGPS機器と調査票を片手に夜

のやんばるの林道等を車や徒歩で見回り、遭遇した生き物やゴミ、外来動植物、違法トラップなどを記録していきます。そして、ツアーで参加者が記録したデータは蓄積され、環境省や沖縄県、九州大学、琉球大学などの協力を得ながら、やんばるの森の現状を把握するための基礎資料として活用していく計画となっております。

ツアーは世界自然遺産地域の保全と利用のバランスに配慮したガイドラインに基づいて実施され、また参加者には責任ある立場でツアーに参加することを誓約する「やんばる約束」に同意してもらったり、ツアー代金の一部(500

## 地域便り

各地域からエコツーリズム推進に関する取組をご紹介いただくコーナーです。続々と新しい取組が始まっています。



満天の星の観察も、このツアーの魅力の一つです。

樹上で寝ているヤンバルクイナを観察している様子。生き物への影響を最小限にするために、ツアーでは生き物を観察する際には、赤色、または緑色のライトを利用しています。



※1:本ツアーの造成は、「令和4年度サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業(観光庁)」の一環として取り組まれました。

※2:やんばるの森のゴミの不法投棄や希少な動植物が盗掘・密猟されている現状に、憤りを感じた地域住民の有志や林業関係者が環境省とともに2011年から行なってきた活動。やんばるの宝である自然豊かな森を見回りながら、そこで発見した希少生物やゴミの不法投棄、密猟トラップ、外来動植物などを記録していく、いわゆる環境モニタリング調査となっています。

## 四国

### 四国「持続可能な観光」推進ネットワークの設立

桑村 琢 (一般社団法人四国ツーリズム創造機構 事業推進本部長)

四国ツーリズム創造機構は2019年3月に四国4県の広域連携DMOとして登録され、広域観光の推進による「四国ブランドの確立」というビジョンの実現に向けて活動を行っています。2022年7月には「四国『持続可能な観光』推進ネットワーク」を立ち上げ、2023年3月末時点で18団体(四国内の11箇所の自治体と7つのDMO)が加入しています。

同ネットワークの具体的な取り組みは、大きく2つです。

- 国際認証や日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)を活用し、四国を「持続可能な観光先進地域」としてブランド化を図る
- 四国全体の取組として情報を取りまとめ、総合的な情報発信を行うことで効果的なプロ

モーションを実施

また、会員間の意見交換会を行うことで、推進事例や課題の共有化を図っています。なお、JSTS-Dのロゴマーク使用承認団体は、四国で5団体(4月現在)となっています。

このたび、持続可能な観光の国際的な認証団体であるグリーン・DESTINATIONSが実施する表彰制度「世界の持続可能な観光地TOP100選」に四国から香川県小豆島町と愛媛県大洲市が選出されました。小豆島は2年連続の選出、大洲市においては同団体が表彰する「The Green Destinations Story Awards ITB Berlin」(ドイツにて開催)の「Culture & Tradition(文化・伝統保存)」部門にて日本で初めて世界1位を受賞するなど、我々の活動が



大洲市受賞時の様子

地域の観光地としての魅力の発信や認知度向上に貢献できたのでは、と感慨深く感じています。こういった吉報を活動の起爆剤として、これからも「サステナブルアイランド四国」を目指し、積極的に推進活動を行ってまいります。



四国「持続可能な観光」推進ネットワーク ロゴマーク

# 01 ブラジルのエコツーリズム

## 外国人観光客の18.6%がエコツーリズムを目的 松平将典 (ブラジル/リオデジャネイロ駐在員)

皆さんはブラジルというどう  
いうイメージをお持ちでしょうか？  
「サッカー」「大自然」「カーニバル」  
「暑い」。地球の裏側の国なのに、  
どこか親近感のある方も多いのでは  
ないでしょうか。本日はそんなブラ  
ジルのエコツーリズムについて紹介  
します。

ブラジルは国土の93%が熱帯地  
域に属していますが、南部では雪が  
降る地域もあり、非常に多様な自然、  
生態系を有しています。8か所の世  
界自然遺産が登録され、アマゾンや  
イグアスの滝といった我々にも馴染  
み深い場所から、北海道の2.5倍の  
面積に及ぶパンタナル大湿原、豊



宿泊したロッジ専属ガイドによるトレイルツ  
アーの様子。地域固有の植生について説明。

かな海洋生態系が織りなすフェルナ  
ンド・デ・ノローニャ諸島と、陸域  
から海域にわたる多様な自然を誇っ  
ています。ブラジルでは1988年に  
「エコツーリズムの日」(3月1日)  
が制定され、これまで国を挙げてエ  
コツーリズムが推進されてきました。  
ブラジル観光省によるとブラジルを  
訪れる外国人観光客の18.6%がエ  
コツーリズムを目的としており(注  
1)、日本人も上位を占めています。  
加えて2021年には、コロナ禍にも  
かかわらず世界自然遺産及び145  
の国立自然保護区に1670万人が  
訪問し、過去5年で最大を記録して  
います。今年1月に就任したルラ大  
統領もそれに先立つ昨年のエジプト  
COP27で「森林破壊とバイオーム  
の縮小をゼロにする」と高らかに宣  
言したことで、改めてエコツーリス  
ムの機運が高まっており、ブラジル  
国内の観光エージェンツによると国  
内エコツーリズム市場も世界を上回  
る年率30%の成長が見込まれてい  
ます(注2)。

私自身各地を旅行した経験から感  
じるブラジルのエコツーリズムの特  
徴は、ホテルと一体化した体験プロ  
グラムにあると言えます。特に欧米  
では旅行に関して単なる訪問(go  
to place)ではなく、何をしに行く  
か(things to do)という考えが強い  
こともあり、提供される体験プロ



ロッジ主催のジャガーツアー。経験を積んだガイドが多く発見率が高い。

グラムは旅行者が宿泊先を選ぶ際  
の大きな基準になっているようです。  
その為、各ホテルでは専属のガイド  
を置き、オリジナルのプログラムや  
アクティビティを目玉に、SNS等で  
盛んに発信しています。実際にパン  
タナルを訪問した際は、約一週間  
にわたってトレイルツアー、カヌー、  
ナイトサファリ等、毎日異なるホテ  
ルのオリジナルプログラムに参加し  
ました。専属ガイドから地域の自然  
や動植物、保護活動について学びな  
がら、多くの知識や示唆を得ること  
が出来て非常に満足したことを思い  
出します。日本においても、インバ  
ウンドの増加と共に外国人観光客向  
けの国内エコツーリズムのニーズが



ガイドと共に夕方のカヌーツアーで水辺の  
動物を観察。

高まっていると感じます。地域関係  
者の相互連携によって、長期滞在を  
可能にする、宿泊と体験型エコツ  
ーリズムの一体的な提供が今後ますます  
重要になってくると考えています。

(注1)  
ブラジル観光省サイト



(注2)  
ブラジルのエコツーリズム  
データ市場と展望



# 02 エコツーリズムの実践を通じたマングローブの保全と 持続可能な観光開発 (フィリピン、サガイ市)

2022年グリーン・デスティネーション・トップ100ストーリー・コンペティションより抜粋

フィリピンのサガイ海洋保護区内  
にあるサヤック島では、行政機関と  
地域住民が連携しエコツーリズムを  
実践しています。サガイ海洋保護区  
はかつてフィリピンのアラスカと呼  
ばれ、豊かな漁場環境がありましたが、  
乱獲により海洋環境が悪化しサン  
ゴ礁が壊滅的な被害を受けました。  
1970年代に海の生態系保全を  
目的に200ヘクタールの海洋保護  
区を設定し、現在32,000ヘクタ  
ールまで拡大しましたが、海洋保護  
区内で生活をする漁民が生計を立て  
られなくなるという状況が起きました。  
そこで、サガイ海洋保護区を管理  
している環境天然資源省(DENR)  
とサガイ市は、市の観光局とも連携

しエコツーリズムに取り組みました。  
サヤック島は1.8ヘクタールの小さ  
な島に750人が生活し、15.5ヘク  
タールのマングローブ林とオオコウ  
モリが生息しています。サヤック島  
では漁業以外の生計手段はなく、地  
域住民の保全への関心も薄い地域  
でしたが、エコツーリズムに取り組  
むことで、地域住民の生活が向上  
し、環境保全に対する意識も高ま  
りました。地域住民はマングロー  
ブ林を活用したアクティビティを提  
供し、収益の一部はコミュニティ  
開発の資金としても活用されていま  
す。2013年に実施した生物多様性  
に対する住民の意識調査では28%  
しかなかった関心が、2022年には

81.6%に増加していました。また、  
2021年のリモートセンシングによ  
るサヤック島のマングローブ林を調  
査した結果、被覆面積が増え、そ  
こに生息するオオコウモリの個体数も  
大幅に回復していたことがわかりま  
した(2012年:1,161個体、2022  
年7,303個体)。エコツーリズムは、  
地域住民の保全活動への参加を促  
すだけでなく、地域の結束を高める  
ツールとしても効果的だということ  
を学びました。

※本記事は、  
「2022年グリーン・デスティネーション・トップ100ストーリー・コンペティション」の中から  
選ばれた持続可能な観光開発のための最もインスピレーションを与えたアジアチブのサイト  
より、フィリピンのサガイ市の取組紹介から抜粋し記事を作成したものです。

2022年グリーン・  
デスティネーション・  
トップ100ストーリー・  
コンペティションのサイト



サガイ市の取組紹介



## 持続可能な観光開発 (サステナブルツーリズム)とJICAの取り組み ~エコミュージアム構想を取り入れた南米ペルーの ウトウクバンバ溪谷上流地域における観光事業~

中小路晴香、佐藤知美  
(独立行政法人国際協力機構(JICA)経済開  
発部民間セクター開発グループ第二チーム)



第二のマチュピチュと言われるクエラップ遺跡から農村風景を眺む

サンバルトロの集落からレパッシュ遺跡(断崖に作られた遺跡)に向かう道

観光は多くの国や地域において  
経済成長や雇用機会創出の牽引役と  
して大きな期待を集める分野となっ  
ています。しかしながら観光による  
経済的便益ばかりを追求して短期  
的な誘客重視の施策を進めてしま  
うと、地域住民の生活や自然環境、景  
観等への悪影響が発生する状況「オー  
バーツーリズム」となり、地域住民  
の観光開発への不満が増大するほか、  
観光客の満足度の低下により地域の  
魅力が減退することになりかねませ  
ん。そのため、持続可能な観光開発  
を実現するためには観光による正の  
インパクトを最大限引き出し、負の  
インパクトを制御することが重要で  
あると私たちは考えています。これ  
らを実現するためには観光産業の主  
たるプレーヤーである民間事業者が  
持続的に発展するための基盤づくり

が必要で、民間事業者の側面支援  
を行うことが行政機関の役割と位置  
づけ、JICAは各国の観光行政機  
関の政策策定や制度整備、人材育成、  
組織の能力強化、インフラ整備等、  
様々な協力を行っています。

文化・自然遺産の保全に配慮した  
観光管理計画の策定

ペルーは紀元前からインカ帝国ま  
でのアンデス文明およびスペイン植  
民地時代の遺跡が数多くあり、豊富  
な文化遺産や自然の観光資源を活用  
した観光産業はペルーにおいて重要  
な産業の一つです。ペルー北部のアマ  
ソナス州の南部、ウトウクバンバ溪  
谷上流地域(以下UVU)は、クエラッ  
プ遺跡をはじめとした同地の文化史  
跡が溪谷一帯に無数に存在し、更に  
プレ・インカ時代だけでなくインカ及  
びスペイン植民地時代という多様な  
文化に基づいた伝統的な生活様式・  
風景が存在しています。しかしなが  
ら地域住民の観光業への参画意識は  
高くなく、史跡の破壊・盗掘といっ  
た問題や、観光関連企業が十分に成  
長していないため観光商品やサービ  
スの供給不足などの課題があります。  
そこでJICAは北海道大学観光  
学高等教育センター・国際開発セン  
ター・エスティ環境設計研究所と協

各国における協力の  
ほか、JICAはU  
N W T O (国連世界  
観光機関)と協働で  
観光事業がどのよう  
にSDGs達成に貢  
献しているのか検証  
するための「指標ツ  
ールキット」の策定な  
ど、持続的な観光開  
発の実現に向け、様々  
なアプローチから貢  
献していきます。

中小路晴香(なかしょうじはるか)、佐藤知美(さとうともみ)  
持続可能な観光開発をテーマに、中南米、中東、アフリカ諸  
国における様々な観光案件に従事。



上:手工芸協会の人々が織物を製作  
下:観光客を迎えるために地域で英語  
の練習をしている

の地域住民が裨益する持続的な観光  
開発モデルの構築を目指しています。  
この協力ではUVU全体を屋根のな  
い博物館と見立てたエコミュージア  
ムの構想を取り入れており、UVU  
の遺産と地域住民の生活や取り巻く  
自然を一体のものとして、文化的景観  
を保全・活用していくことを目指し  
ています。2022年からは地域住  
民を巻き込んだワーキンググルー  
プを形成し、文化的景観の保全と活用  
の意見交換・情報収集を行いました。  
遺跡のみならず食や民俗・風習、手  
芸など地域の人々自らが持つ資源  
の再発見や共有がなされ、この地域  
住民との活動を通して得た情報を基  
に、文化的景観の保全活用のアクセシ  
ビリティに反映していく予定です。